

Abhayākaragupta のマンダラ儀軌 *Vajrāvalī*

森 雅 秀

I. *Vajrāvalī* (VA) は、インド後期密教を代表する学僧 Abhayākaragupta (11c 後半-12c 前半) による大部のマンダラ儀軌である。マンダラ制作方法及び頂儀礼の次第が主要な部分を占め、その前後に補足的な儀礼が解説されている。当時の密教儀礼体系を知るための、もっとも基本的な文献のひとつといえる。

VA には、これまで十数本のサンスクリット写本の存在が確認されており、蔵大蔵経にはそのチベット語訳も含まれている¹⁾。しかし、これまで全体を扱った批判的校訂テキストは発表されておらず、翻訳もなされていない²⁾。

この小論では、VA 研究のための予備的段階として、VA の執筆年代と執筆目的という基本的な事項の確認を行いたい。

II. はじめに VA の執筆年代について考察してみよう。

VA 中には年代に関する明確な記述は含まれない。これは他の文献にも見られることではできないようである。

Abhaya の著作の中で完成年が記されているものが三点あるので、これを中心に VA の執筆年代を検討してみる。三点とは、*Sampūṭatantra* に対する積書 *Āmnāyamañjarī* (TTP, No. 2328), *Buddhakaṭālantra* に対する註 *Abhayapaddhati* (TTP, No. 2526), そして *Munimatālankāra* (TTP, No. 5299) である³⁾。いずれも、当時ベンガル地方を支配したパーラ朝の王 Rāmapāla の1年が基準になっており、順に第37年、25年、30年である。Rāmapāla 王の在位年には諸説あるが、西暦1077-1120年、1084-1126年の二説が有力である⁴⁾。

つぎに、Abhaya の作品の中で VA によって言及されるテキストと、逆に VA が言及するテキストを調べてみる。前者に *Āmnāyamañjarī*, *Niṣṭhāyogā* (TTP, Nos. 3962, 5023), *Jyotirmañjarī* (TTP, No. 3963), *Śricakrasaṃvāra samaya* (TTP, No. 2213) の四点があり⁵⁾、後者に *Āmnāyamañjarī*, *Abhayapaddhati*, *Niṣṭhāyogāvalī*, *Jyotirmañjarī*, *Upadēśamañjarī* (TTP, No. 5) の少なくとも五点を数えることができる⁶⁾。これより、VA によって言及され、かつ VA が言及する *Āmnāyamañjarī*, *Niṣṭhāyogāvalī*, *Jyotirmañjarī*

は、VA と平行して執筆されたことが推測される⁷⁾。また *Abhayapaddhati* に VA が言及されていることから、*Abhayapaddhati* の完成年、すなわち西暦1102年か1109年以前には、すでに Abhaya は VA に着手していたといえる。

ところで、*Āmnāyamañjari* の完成年である西暦1114年、あるいは1121年は Abhaya の最晩年にあたるが⁸⁾、VA の完成がこの時期にまで及んだとは考えられない。その理由として、VA 中で指示される *Āmnāyamañjari* の参照箇所が *Āmnāyamañjari* の前半に集中し⁹⁾、逆に *Āmnāyamañjari* 中の VA への言及後半にあること、VA のチベット語への翻訳と第一回の校訂が Abhaya の生前に行われていること¹⁰⁾、この時の校訂者 Shes rab dpal と一緒に『八千頌経』への広瀚な註釈書 *Marmakaumudī* (TTP, No. 5202) のチベット語訳を行っていることがあげられる。

これらのことから、VA の執筆時期を、Abhaya が *Abhayapaddhati* を執筆、校訂していた1100年前後に想定することができよう。

つぎに、VA 執筆の目的について述べる。

羽田野伯猷氏は、Abhaya が *Jñānapāda* の『マンドラ儀軌四百五十頌』に解説を著し、さらにこれをもとにして VA を著したと述べている¹¹⁾。これは『青史』*Deb ther sngon po* 中の記述にしたがったものと思われるが¹²⁾、Abhaya 著作の中に該当する解説書は存在せず、VA 中にも『四百五十頌』への言及はみられない。『青冊史』やプトンのテンギェル目録『如意宝珠自在王鬘』(東北5205)によれば、*Jñānapāda* の『四百五十頌』自体、早い時期にカシミール散佚し、インドには存在しなかったという¹³⁾。

Abhaya 自身は VA の帰敬偈の中で、VA を執筆する目的として、マンドラ周する儀軌類を可能な限り収集し、これを順序だてて解説すること、他の阿闍梨によるものが不完全であるため修正することの二点をあげている¹⁴⁾。

よく知られているように、VA は *Niṣpannayogāvalī*、*Jyotirmañjari* とともに密教儀礼に関する三部作を構成している。このうち他の二著作が VA の補完的立場にあることは Abhaya 自身、VA の中で明記しているが、同じ箇所でも *Niṣpannayogāvalī* を著した理由をあげている¹⁵⁾。それによれば、VA で解説するマンドラ——これは約30種、尊格数はのべ1600以上におよぶ——の観想法、すなわち諸尊の形態、身色、面、臂、持物、マントラについては、VA が大部になりすぎるのを危惧して詳述することを避けた。そして VA ではなく *Niṣpannayo-*

gāvalī の中で諸尊の観想法を解説したというのである。さらに別の箇所では護摩儀礼に関しては *Jyotirmañjari* を参照するように指示し、VA では護摩の形態や規格について簡単に述べるにとどまっている¹⁶⁾。

このように、Abhaya が意図したところでは、マンドラに関する儀軌を網羅に集めて修正を加えながら系統だてたうえで、そこからマンドラの諸尊の観法と護摩の儀軌を除いたものが VA であるといえよう。

- 1) 塚本啓祥他編『梵語仏典の研究IV 密教経典編』平楽寺書店 1989, pp. 379-380 参
- 2) これまでの研究については塚本他編前掲書参照。筆者はロンドン大学提出予定学位請求論文の一部に VA の梵蔵テキストと翻訳を準備している。
- 3) いずれもチベット訳テキストの巻末に示される。該当箇所は以下のとおり。T1 Vol. 55, 248, 5, 5; Vol. 58, 102, 1, 4-5; Vol. 101, 277, 2, 7.
- 4) Dutt, S., *Buddhist Monks and Monasteries of India*, London, 1962, p. 35
- 5) TTP, Vol. 80, 87, 2, 8; 83, 3, 3; 122, 5, 2; 119, 5, 7 etc..
- 6) TTP, Vol. 55, 212, 5, 4; Vol. 58, 91, 5, 1; Vol. 80, 126, 3, 7; 159, 2, Vol. 86, 78, 1, 1 etc..
- 7) このことは、『青冊史』が紹介する VA の成立事情を想起させる。それによれば Abhaya は Vajrayoginī のすすめにしたがい、*Āmnāyamañjari*, *Abhayapaddh* そして VA を執筆したことになっている (Roerich, G.N., *The Blue Annals*, cutta, 1949, p. 1046)。また別の伝承では *Niṣṭannayogāvalī* と *Jyotirmañjari* このとき著したとされる (Das, S., *Contribution on the Religion, History & Tibet*, Journal of Asiatic Society of Bengal, Vol. 51, No. 1, 1882, p. 17)。
- 8) Abhaya の没年は Rāmapāla 王退位の三年前といわれる (Dass Gupta, N.J. *Abhayākaragupta*, *Indian Culture*, Vol. 3, 1936, p. 372)。
- 9) たとえば TTP, Vol. 55, 159, 5, 5ff..
- 10) チベット訳テキストのコロフォンによる。TTP, Vol. 80, 126, 2, 6f..
- 11) 羽田野伯猷「チベット仏教形成の一課題」『チベット・インド学集成 I』法蔵: 1988, p. 27。
- 12) Roerich, *op. cit.*, pp. 371-372. ただし同書では VA が『四百五十頌』にもとので Jñānapāda 流に属すると述べるだけで、解説書を著したという記述はない。
- 13) Roerich, *op. cit.*, p. 371; Lokesh Chandra ed., *The Collected Works: Bu-ston*, part 26, New Delhi, 1971, f. 35b, 1-4. ただしブトンは『四百五十頌』はなく『二百五十頌』(Nyis brgya lnga bcu pa) とよんでいる。
- 14) TTP, Vol. 80, 81, 1, 5ff..
- 15) TTP, Vol. 80, 83, 3, 1f..
- 16) TTP, Vol. 80, 122, 5, 1f..

<キーワード> Abhayākaragupta, Vajrāvalī

(名古屋大学助手)

印度學佛教學研究 第三十九卷 第二號〔通卷第78號〕
文部省科學研究費補助金（研究成果公開促進費）による出版

平成3年3月15日印刷
平成3年3月20日發行

編集兼 日本印度學佛教學會
發行者 代表者 平川 彰
東京部新宿區下落合2丁目5番8號
印刷者 鈴木 正明

發行者 日本印度學佛教學會
東京都文京區本郷七丁目三番一號
東京大學文學部印度哲學研究室內
振替口座 東京八-一五五一二番

落丁本・亂丁本はお取替えいたします 株式会社 厚蔭社・印刷製本